



## 国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所

### 新たな変異株の急拡大により、渡航制限が継続

2021年11月21日付 UNWTO 本部発表の和訳です。

原文はこちらから：<https://www.unwto.org/news>

新たな変異株の急拡大が国際観光に影響を与え、世界の5分の1の国・地域が完全な国境閉鎖を続けています。最新の調査によると、まだ世界の国・地域の98%が何らかの観光を目的とする渡航に対する制限(以下「渡航制限」という。)を設けています。

国連世界観光機関(UNWTO)の観光を目的とする渡航制限に関する報告書によると、**現在、46の国・地域(世界の21%)で観光客に対して完全に国境を閉鎖しています。**このうち、26の国・地域は少なくとも2020年4月末から完全に国境を閉鎖しています。さらに、55の国・地域(世界の25%)では、引き続き国際観光に対して部分的な国境閉鎖を実施しており、112の国・地域(世界の52%)では、国際観光客が到着時にPCR検査や抗原検査の結果を提示するよう求めています。

同報告書では、国・地域がワクチン接種済みの国際観光客に対して、どの程度開放しているかということも示されました。20の国・地域(世界の9%)で、観光目的で訪問する場合に**2度目の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のワクチン接種を完了していることを義務付ける**一方で、85の国・地域(世界の39%)では、2度目のワクチン接種を完了した観光客に対する制限を緩和しています。また、これまでに

COVID-19 関連の制限を完全に解除したのは、わずか 4 国・地域(コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、メキシコ)となっています。

UNWTO ズラブ・ポロリカシヴィリ事務局長は、「観光の再開と観光がもたらす社会的・経済的利益の回復には、渡航制限の安全な緩和や撤廃が不可欠です。国・地域がパンデミック(世界的大流行)の進化に対応した、エビデンスに基づく制限を実施することは、観光客と観光従事者の安全を守りながら旅行に対する信頼回復に役立つでしょう。」と述べています。

過去の UNWTO の観光を目的とする渡航制限に関する報告書にも示されているように、最新の報告書でも、渡航制限に関して地域差が依然としてあることが示されています。アジア・太平洋は依然として最も制限が多い地域であり、完全に国境を閉鎖している国・地域の割合で言えば、全世界の 65%を占めます。これに対し、ヨーロッパは国際観光客に対して最も開放された地域(7%が完全な国境閉鎖)であり、これにアフリカ(9%)、米州(10%)、中東(15%)が続きます。

各国当局が信頼と信用を維持し、国際的な移動をさらに円滑にするためには、すべての情報システム及びプラットフォームにおいて、時宜を得た信頼できる一貫性のある方法で確実に出入国の手続や要件を提示することが重要です。パンデミックがもたらす絶え間ない課題が、このことをますます強調しています。

#### 関連リンク:

- [PDF ニュースリリースのダウンロード](#)
- [UNWTO:観光と新型コロナウイルス感染症](#)
- [第 24 回総会](#)
- [UNWTO レポート: 第 11 回 観光を目的とする渡航の制限 報告書](#)

**World Tourism Organization (UNWTO) Regional Support Office for Asia and the Pacific**  
- A Specialized Agency of the United Nations

Silkia Nara 2F, Sanjo-honmachi, Nara, 630-8122, Japan Tel: +81(742)30-3880 Fax: +81(742)30-3883 Email: info@unwto-ap.org